

歴代組合長名

京都美容術営業組合

1	丸 野 新 八 郎	17	石 本 喜 藏
2	角 信 勝	18	橘 幸 太 郎
3	竹 内 藤 吉	19	瀧 淵 清 藏
4	原 田 重 光	20	内 山 順
5	内 山 岬	21	内 山 順
6	原 田 重 光	22	泉 金 藏
7	村 瀬 清 之 助	23	細 見 金 八
8	内 山 岬	24	上 田 留 吉
9	平 馬 魁 亮	25	石 本 喜 藏
10	西 尾 林 太 郎	26	檜 田 重 治
11	上 田 留 吉	27	宮 永 久 次 郎
12	磯 貝 末 吉	28	島 田 関 太 郎
13	谷 邑 吉 太 郎	29	島 田 関 太 郎
14	鈴 木 吉 之 助	30	原 田 長 次 郎
15	鈴 木 吉 之 助	31	森 口 正 智
16	内 山 岬		

京都府連合理容師会

1	森 口 正 智	4	荒 川 十 太 野
2	渡 辺 義 雄	5	高 橋 幸 嗣
3	森 口 正 智	6	高 橋 幸 嗣

京都府理容環境衛生同業組合

1	高 橋 幸 嗣	3	高 橋 幸 嗣
2	高 橋 幸 嗣	4	高 橋 幸 嗣

京都理容業界百年史(年表)

著 者 山 島 泰 三

明治元年(慶応4年, 1868)

西洋文化と風俗の来潮, 理容維新時代となる, 切下髪(きりさげ)茶せん髪がはやり丁髷は小型化(けずり髪)となる, 男子髪結代四十八文(約5銭)京都府庁開設初代知事長谷信篤。京都町組改制。

明治2年(1869)

西洋理髪の導入, 外交官, 政治家, 軍人等の斬髪者続出(明治元勳の調髪師 岡山出身者 石井秀吉)散髪急進者の横井, 小楠が寺町にて暗殺さる。京都5人組廃制, 第2次町組改正, 京都府制々定, 関所廃止, 地方から入京ラッシュ始る。

明治3年(1870)

結髪師の両技兼用, 理髪修業と職業転換が始る(桃屋彦七, 大橋屋丸山, 三条大橋東入)理髪料六十四文(約6銭)平民に苗字を許す。

明治4年(1871)

8月9日斬髪令公布, 理髪職人の出京入京(転入出)が始る(長谷川松之助, 末吉兄弟, 北村京次郎, 横江関次郎)理髪料10銭(百文)戸籍法公布, 新貨幣制度実施, 廃藩置県, 神戸港貿易始る。岩倉大使一行が散髪姿にて欧米視察出発。

明治5年(1872)

斬髪散髪の普及, 京都理髪店の最初(長谷川二軒床寺町五条, 田中美名都軒伏見)理髪料金値上25銭(明治最高料金)河竹黙阿弥作の「斬髪狂言」が南座にて初上演, 第3次京町組改制で番組を区制とし区長戸長とす。僧侶の蓄髪認可, 職業の自由化, 娼婢解放人身売買禁止令公布, 都おどり始る。京都市人口244, 883人。

明治6年(1873)

3日20日明治天皇斬髪, 斬髪者急増, 床式から洋式店舗へ改装始る, 北村京次郎再開業。徴兵令公布, 不況による京都人口の減少226, 134人。

明治7年(1874)

京阪神の理容業界交流始る, 徴兵壮丁皆散髪となる。理髪料金下りだす20銭, 洋式生活要品と化粧品類の輸入始る(神戸)。京都歩兵第9連隊伏見鍋島に設置(後に大津へ移る), 四条大橋の木造を鉄造にす。